さとやま 2020年　春号（通巻150号）

■発行　特定非営利活動法人うしく里山の会
〒300–1212　茨城県牛久市結束町489-1
tel 029-873-8552　fax029-873-8552

■事務局　牛久自然観察の森内
tel 029-874-6600　fax029-874-6812
http//ushiku-satoyama.org/
■編集　木谷昌史

さとやま

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌 No.150

1.　表紙（朝日で体を温めるベニシジミ）
2.　牛久の外来植物
3.　お知らせ
3.～6 プロジェクト活動報告
7.　春の林床の植物達
8.　裏表紙　（ウグイスカグラ）

①トウズミモチの樹形 上池親水公園
2018 年 7 月 13 日 戸塚昌宏
②葉と透けて見える葉脈
2019 年 1 月 5 日 戸塚昌宏
③ 円錐花序の一部の花軸と花
2003 年 6 月 21 日 渡辺泰

牛久の外来植物 13.

トウネズミモチ（唐鼠黐） ・・・内野　徹

モクセイ科イボタノキ属の常緑小高木。明治初期に中国から渡来。和名は、果実が黒紫色で鼠の糞に似ていることと、葉がモチノキ（黐の木）に似ていることに由来。トウ（唐）は中国原産を意味します。

在来種でよく似た樹木にネズミモチがありますが、これに比べるとトウネズミモチは樹高や葉の大きさがひと回り大きく、高さが2～10m(写真①)、葉身長が 4 ～10cm になります。更に大気汚染に強く、日陰にも耐え、移植が容易で生長が早いことから、街路樹や公園樹としてよく植えられてきました。牛久市内でも公園等の植栽の他、最近は管理放棄地や川岸等で自生がふえてきています。

葉は対生（たいせい）で枝に対して 2 枚ずつ対に配置されています。葉裏を光に透かして見ると、葉脈（水や養分あるいは光合成で作られたデンプンを運ぶ筋状の通路）の中央部の太い主脈もそこから分岐した側脈も透けて見える（写真②）のに対して、ネズミモチは葉が厚めで主脈は見えるものの側脈は見えないことから、ネズミモチと区別できます。

開花は 6 月～7 月で、円錐花序に淡黄白色の小花が多数咲き（写真③）、果実は直径7～8mmのほぼ球形です。ネズミモチの方は開花が一ヶ月ほど早く、果実は楕円形です。花のツンとした強い香りにはミツバチが引き寄せられて、高品質の蜂蜜が取れます。しかし果実がヒヨドリなどに好んで食べられるため、糞とともに拡散、野生化しています。

環境省の侵略的外来樹木で、2015 年 3 月の「生態系被害防止外来種リスト」の重点対策外来種に分類、注意喚起がなされています。同日廃止の「要注意外来生物」にも指定されていました。

お知らせ

第１６回通常総会のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・事務局

令和2年 5 月 20 日（水）9 時から第 16回通常総会を牛久自然観察の森ネイチャーセンターで開催いたします。今年度は、感染症拡大防止のため書面評決も可能です。大変お手数をおかけいたしますが、出欠確認用返信ハガキにて出欠のご連絡をお願いいたします。

プロジェクト活動報告

結束町みどりの保全区「エコアップ」作戦活動報告・・・・・・・・・木谷 昌史

牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町の「みどりの保全区」で行っている森林維持管理作業「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。

令和元年度は1年を通じ12回、のべ67名の皆様と落ち枝拾いや下草刈り・落ち葉集めの作業を行いました。道沿いの荒れた藪には比較的新しく捨てられたゴミもありましたが、草刈りを行ってからは捨てられるゴミも少なく、多少の効果がでたかと参加メンバーとやりがいを感じる場面もありました。毎年この季節は活動地から山野草が顔を出し、一年の成果を実感できるのですが今年は少し先延ばしとなりました。今後の活動の再開を心待ちするばかりです。

道路沿いの藪を刈り見通しをよくする様子

下草刈りと草集め作業の様子
7月8月の草刈りは、アズマネザサを衰退させるのに効果的です。

※活動の再開は会報さとやま夏号又ならびに HP にてお知らせいたします。

里山セミナー（牛久市都市計画課・NPO 法人うしく里山の会共催）

「切手が語る世界の森林・樹木―その多様性と保全についてー」報告

齊藤 英夫

標記セミナーが二月とは思えない穏やかな日2020 年 2 月 15 日（土）牛久市中央生涯学習センター 2 階中講座室で開催されました。 牛久FM-UU、 朝日新聞、 エリート情報、 常陽リビングでの事前報道等もあり、 当初参加人数 50 名ほどの予定でしたが、 主催者や里山植物リサーチメンバーを除いて 72 名となり、 急遽補助イスを出す盛会となりました。

演者の羽賀正雄氏は、 NPO 法人うしく里山の会里山植物リサーチのメンバー、 公益財団法人日本郵趣協会植物切手研究会前代表で， 大学卒業後林野庁に勤務。 30代初めころ台湾発行の世界森林会議の切手を見かけたのをきっかけに森林や林業に関わる切手の収集を本格的に始めて50年、 これまでに集めたコレクションは約200か国・地域の約2万点にのぼる。 今回はその中から森林の役割と保全に重点を置いて切手 740 枚を 125 枚のスライドで解説されました。

講演会場の全景

内容をダイジェストすると、 以下の通り9章に分けて解説がなされました。

A. 人類の出現と森林：先史時代の人類はすべて樹木、 森林から火を使い熱源をとり、 松明を明かりにしていた。

B. 森林の恵み･森林の役割：森林資源、水源、防風林等種々の利用、 恵みについての説明。

C. 世界の森林分布（1）寒帯・亜寒帯・温帯地域：最も森林の発達した地域の南極、ヨーロッパ、 ソ連、 北米、 中国、 日本等の数多くのきれいな景色・樹種の説明。

D. 世界の森林分布（2）乾燥地帯・熱帯・亜熱帯地域：砂漠、 サバンナ、 熱帯の絶滅危惧種。 奇樹ウェルウイッチア（奇想天外）、サバンナの王バオバブ等の樹木。 魅力的な美しい熱帯の花木の数々。 盆栽を含む樹景の楽しみを紹介。

E. 木材産業・木材利用の PR：イギリス、 フランスのアフリカ旧植民地での木材産業、 ベトナム、 インドネシア、 北欧の状況を紹介。

F. 緑化促進への取り組み：各国の取り組み方が個性的であるのがよくわかる。 アメリカ植樹の日が面白い。 日本の全国緑化運動。 サヘルの緑化切手にはアフリカ関係国が共同で取り組んでいて興味深い。

G. 森林火災防止への取り組み：オーストラリアの最近の山火事で注目されたが、 森林では山火事が最も重大。 各国の山火事防止。 消火活動の紹介。

H. 環境･森林保全への呼びかけ：地球温暖化、気候変動、 環境保全に向けての世界各国からのアピール。 哲学的、 分かりやすい、 生々しい、 厳しい、 直接的表現をするなど国民性により表現が異なり興味深い。 日本の切手はやや曖昧な表現。

I. 未来への遺産＝森林を大切に！：次世代の子供たちへ森林を継承しなければならない。 教育、 里山の保全の活動が大事。「緑の切手」を発行しましょう！

切手は自分で発行できます。 発行してみませんか？

講師の公演前挨拶

満席の講演会

【写　真】
会　　場：中央生涯学習センター
撮影日時：令和２年２月 15 日
撮 影 者：戸塚昌宏

自然観察出前講座

これまでの活動をふり返って

蓮尾　亮

２月４日（火）牛久沼でバードウォッチングを開催しました。 今回は6名の方に牛久市観光アヤメ園駐車場に集まっていただき始まりました。 最初に双眼鏡の練習をした後は、 アヤメ園を通過し、 牛久沼が見渡せる場所に移動しました。 沼ではカイツブリや冬だけに見られるカンムリカイツブリ、上空を横切るカモの仲間が見られました。

道を挟んで反対側の畑ではセグロセキレイがエサ探しに夢中です。 畑から飛び出ているパイプにはモズがとまりミミズや昆虫を探しているようでした。

上の写真のモズ♂は望遠鏡にスマートフォンを

くっつけ撮影したものです。 画質は劣りますが、後で名前を調べるには十分です。 さらに牛久沼を右側に見ながら南へ移動していきます。 左側の斜面林には緑が広がり地面ではツグミがせっせと落ち葉をひっくり返して虫探しを、 入り組んだ林の中からは「キョッキョ」と特徴的なアカゲラの鳴き声が響きます。 木道で折り返して少し進んでふと上空を見上げると、トビが旋回しながら飛んでいます。 そこにハイタカがトビを追いかけていきました。 これには参加者の方たちも大興奮！ 市内でも身近にタカがいることを感じられたのではないでしょうか？

最後は元の駐車場に戻り、 どんな野鳥が見られたかを確認して終了となりました。

牛久自然観察の森指定管理者

定例バードウォッチング

蓮尾 亮

牛久自然観察の森では野鳥の繁殖期の4月～6月、移動期、越冬期の9月～3月に定例バードウォッチングを行っています。

ここでは直近で行った1月の活動についてご紹介いたします。活動は9時～10時半、牛久自然観察の森の正門に集合しスタートします。（運営には、野鳥ボランティア［牛久とりの会］の皆様にご協力いただいています。初めて双眼鏡を使う方はボランティアさんから使用方法を教わることができます。）

早速園路を歩いて行くとシジュウカラやコゲラ、メジロなどの留鳥と出会います。冬の時期は混群と言って、色々な野鳥が群れながら移動するので観察しやすくなります。運が良ければ3m 近くまで来る事もあります。

その後園外の田んぼの広がるビートルズトレイルに移動すると、上空を旋回しながら悠々と飛んでいくオオタカを見る事が出来、参加者した方々もじっくりと見られたようです。小野川沿の鉄塔では、牛久自然観察の森のバードウォッチングを約20年間行った中で初めてとなるハヤブサを記録しました。

最後にネイチャーセンターに戻り、全体で何種類見られたかを確認して終了となりました。

園外トレイルを進み小野川沿いを探鳥する様子（ 蓮尾 ）

雑木林応援隊

「応援隊ある一日の活動」

阪口 昭義

第一駐車場の奥に梅林があり、そのまた奥に炭焼きの窯と、ちょっとした煮炊きが出来る大きな囲炉裏があります。そこには、柱と屋根だけの小屋がかかっており、雑木林応援隊の拠点になっています。朝礼をし、隊長から今日の作業内容の説明をうけ、それぞれの担当に分かれて活動開始です。女性隊員の方々と本日の食事当番が持ちよった食材で、昼食の準備にかかります。始めのころは、味噌汁の用意ぐらいでしたが、最近はいろいろな料理が出てくるので、楽しみです。特に、女性隊員の作る野菜サラダや炒め物は絶品で、そこらのレストランには負けていません。畑隊がここで作っている野菜を中心にしているのがいいのでしょうか。

さて、本日の作業は、ムジナの里と呼ばれるちょっと離れた場所での倒木処理・下草狩り・竹林整備です。

まず、倒木や倒れかかった木を見つけ、作業手順を確認します。倒れそうな木の根元をチェーンソーで切断するのですが、その前に木のなるべく高い位置にロープを掛け、道路沿いの電線に引っかからないように、中側に引っ張りながら切断します。倒した倒木にチェーンソーを持った何人かが、ハイエナが群がるようにとり付き、枝を払い、幹を一メートルぐらいに切り分け、アッという間に外へ運び出します。

下草狩りは、自分の背丈ぐらいに伸びた雑草に向かって、サンダーバードと呼んでいる草刈機で挑みます。何回か往復しているうちにきれいな草原が現れます。狭い場所等草刈機が入れないところは刈払機で仕上げます。

竹林の整備は、まず伐採する竹に目印を付け、倒す方向をきめます。倒れたとき、他の竹に引っかからないようにロープで引っ張りながら根元を切断します。それでも竹が密集している場所では、引っかかってなかなか倒れません。そんな時は、切断された根元を持って、外に向かっていっきに引っ張って倒します。あとは、先ほどのハイエナ作業をして終了です。

払った枝葉をチッパーと呼ばれる粉砕機にかけて細かくし、後で囲炉裏の周り等ぬかるみに敷きつめます。

そんなころ、食事当番から「ごはんですよー」と声がかかり、みんなの顔が一斉にほころびます。

春の林床の植物達

チゴユリ
みずみずしいササのような緑の葉と小さい白い花が林の中で可憐に佇みます。

イチリンソウ
淡い薄桃色の花に木漏れ日が照らすと透き通るようにみえます。

タカトウダイ
夏の花期に向けて、勢いよく背丈を伸ばし始めています。

タチツボスミレ
林内では比較的多く見られるスミレ。青色の花弁が一際、目をひきます。

ヤブレガサ
葉は、深々しい森にきたのかと思うような独特な形態をしています。

ウツボグサ
一面に葉を広げ、木漏れ日を浴びながら成長し、６月頃に青紫色の花を咲かせます。

ジュウニヒトエ
幾重にも重なる淡い紫色の花、凛とした佇まいは気品を感じさせてくれます。

セイヨウタンポポ
周囲の草が短いため春先の花は低く咲き、その後、種を遠くに飛ばすため綿毛は高い位置に。

フデリンドウ
日当たりの良い草地で見られます。大木が倒れた翌年、株の周りでひょっこりと顔を出すことも。

アマドコロ
硬い地面からニョキニョキと出て来てあっという間に群落を作ります。
５月上旬、釣鐘の様な白い花を咲かせます。

ワニグチソウ
葉の様な花弁の形がワニの口のような形をしているのでその名前がつけられたとか。

ヤマユリ
芽立ち後に葉を広げながら背丈を伸ばしていく様子です。